



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年8月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社駅探

コード番号 3646 URL <http://www.ekitan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート部長 (氏名) 秦野 元秀 TEL 03-6367-5951

四半期報告書提出予定日 平成27年8月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	685	6.7	130	9.5	129	9.6	84	11.8
27年3月期第1四半期	642	△4.3	119	22.4	118	21.8	75	27.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	16.37	16.30
27年3月期第1四半期	14.64	ー

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第1四半期累計期間は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	2,412	1,792	74.3
27年3月期	2,525	1,759	69.7

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 1,792百万円 27年3月期 1,759百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	ー	10.00	ー	10.00	20.00
28年3月期	ー				
28年3月期(予想)		10.00	ー	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,382	3.5	193	△18.3	192	△18.3	128	△14.9	24.83
通期	2,800	0.5	413	△6.8	413	△6.7	276	1.1	53.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期1Q	6,888,800株	27年3月期	6,888,800株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	1,700,316株	27年3月期	1,700,316株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期1Q	5,188,484株	27年3月期1Q	5,188,484株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

決算補足資料は平成27年8月7日（金）に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における業績は、売上高は685,815千円(前年同四半期比6.7%増)、営業利益は130,369千円(前年同四半期比9.5%増)、経常利益は129,968千円(前年同四半期比9.6%増)、四半期純利益は84,913千円(前年同四半期比11.8%増)となりました。

当社の主力事業である乗換案内サービスは、日常生活での人々の移動をサポートする、利用頻度の高いサービスとして世の中に広く定着しており、生活情報系サービスとの組み合わせなど様々な事業展開に応用できると考えております。一方で、個人及び法人ユーザーのニーズの多様化や、スマートフォンの普及に伴う無料サービスの一般化等、環境変化は著しく、これら変化に対応すべく事業領域の拡大や新たなビジネスモデルの確立が課題となっております。このような状況において、当社は既存事業における収益の安定化を図りつつ、新たな事業領域の開拓や更なる成長のための研究開発、マーケティングを行うなど事業拡大に注力してまいりました。

当第1四半期累計期間の売上高につきましては、前年同四半期と比べて増加しました。コンシューマ向け事業のうち、有料会員サービスにおいては、乗換案内サービスや会員優待サービス等の高単価メニューを中心に積極的な販促活動を展開し、有料会員拡大に向けた施策を実施したことにより、売上高向上に寄与しました。また「スゴ得コンテンツ」「dメニュー」「iMenu」等、携帯電話キャリア向けの乗換案内サービスの提供も順調に推移しております。広告は、新規案件の獲得に課題があるものの、ページビューが安定的に確保できていることによりアドネットワークを中心に堅調に推移しました。

また、昨年12月より開始しましたトラベル事業につきましては、乗換検索結果から旅行プランをスムーズに申し込みができる高いユーザビリティをご評価頂くとともに、東海道・山陽新幹線に加え、4月より北陸・東北新幹線など対象路線を拡大したことにより、申込件数は順調に増加しております。

法人向け事業は、既存取引先からの受注の安定確保及び取引深耕、ならびに新規案件の獲得に向けた積極的な営業活動を展開しているものの、一部顧客との契約内容の見直し等の影響により、売上高は減少しました。

利益につきましては、開発外注費の減少や、有料会員獲得のために積極的な販促活動を展開しつつも、各施策において、より効率的に販促費を投下したことにより、売上高の伸張に対し広告販促費が抑制された結果、営業利益以下、各区分利益は前年同四半期と比べて増加いたしました。

前述の取り組みの結果、各セグメントの売上高及びセグメント利益は次のとおりとなりました。

コンシューマ向け事業の売上高は539,202千円(前年同四半期比11.3%増)、セグメント利益は166,765千円(前年同四半期比43.9%増)となりました。

法人向け事業の売上高は146,613千円(前年同四半期比7.5%減)、セグメント利益は30,567千円(前年同四半期比51.6%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産の部)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は1,922,949千円で、前事業年度末に比べて76,805千円減少しております。売掛金が前事業年度末に比べ54,877千円減少したことが主な要因であります。当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は489,711千円で、前事業年度末に比べて35,719千円減少しております。工具器具備品の減少11,423千円及びソフトウェアの減少18,819千円が主な要因であります。

## (負債の部)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は389,616千円で、前事業年度末に比べて125,573千円減少しております。未払金の減少30,730千円及び法人税の支払いによる未払法人税等の減少44,806千円が主な要因であります。

## (純資産の部)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は1,792,708千円で、前事業年度末に比べて33,028千円増加しております。剰余金の配当が51,884千円発生したものの、四半期純利益84,913千円を計上したことが要因であります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成27年5月13日の「平成27年3月期決算短信」で公表致しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
  
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,433,273	1,420,907
売掛金	502,266	447,388
原材料及び貯蔵品	82	70
仕掛品	802	3,863
その他	64,814	52,040
貸倒引当金	△1,483	△1,322
流動資産合計	1,999,755	1,922,949
固定資産		
有形固定資産	110,107	97,373
無形固定資産		
ソフトウェア	263,493	244,673
その他	23,591	19,635
無形固定資産合計	287,084	264,309
投資その他の資産	128,238	128,028
固定資産合計	525,431	489,711
資産合計	2,525,186	2,412,660
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	76,406	78,549
1年内返済予定の長期借入金	80,000	80,000
未払金	146,697	115,966
未払法人税等	77,322	32,516
賞与引当金	26,038	—
役員賞与引当金	21,080	—
その他	87,643	82,583
流動負債合計	515,189	389,616
固定負債		
長期借入金	240,000	220,000
資産除去債務	10,316	10,336
固定負債合計	250,316	230,336
負債合計	765,506	619,952
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	291,956	291,956
資本剰余金	291,956	291,956
利益剰余金	2,050,160	2,083,189
自己株式	△874,392	△874,392
株主資本合計	1,759,679	1,792,708
純資産合計	1,759,679	1,792,708
負債純資産合計	2,525,186	2,412,660

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	642,730	685,815
売上原価	243,825	257,495
売上総利益	398,904	428,319
販売費及び一般管理費	279,809	297,950
営業利益	119,095	130,369
営業外収益		
受取利息	—	48
営業外収益合計	—	48
営業外費用		
支払利息	540	450
為替差損	16	—
営業外費用合計	556	450
経常利益	118,538	129,968
特別損失		
固定資産除却損	—	2,646
特別損失合計	—	2,646
税引前四半期純利益	118,538	127,321
法人税、住民税及び事業税	16,979	30,396
法人税等調整額	25,586	12,010
法人税等合計	42,565	42,407
四半期純利益	75,972	84,913

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。